

# TOKYO人権

特集 01 人はHIVウイルスより強いんです。 池上千寿子  
特集 02 人権週間 イベント情報

vol. **32** | 2006.12  
財団法人 東京都人権啓発センター

# 特集 01

TOKYO人権

## 人はHIVウイルスより強いんです。

HIV感染者・エイズ患者が増加しているにもかかわらず、世間の関心は逆に薄れつつあるようです。そこで今回の特集1では、この病気が出現した頃から精力的に民間活動をなさっている池上千寿子さんをお迎えし、HIV/AIDSの問題に取り組むことになったきっかけ、NPO法人「ぷれいす東京」を立ち上げた経緯やその活動、日本の現状と展望などについてお話をうかがいました。

エイズ患者に接して  
他人事とは思えなくなった。

**Q** HIV/AIDSの問題に取り組むことになったきっかけを教えてください。

セクソロジー（性科学）を学ぶため、1982年にミルトン・ダイヤモンドという有名な教授がいるハワイ大学の「性と社会太平洋研究所」へ留学したことがきっかけです。ちょうどそこで学んでいた頃、アメリカ本土ではゲイ（男性同性愛者）たちが襲われているという話を耳にしました。しかも新しい病気だけではなく、人間からも襲われている、と。

当時、エイズは実態がよくわかっていなかったために「悪い行為の結果だ」という間違った認識が社会に広がり、ゲイの人たちが攻撃の標的にされてしまいました。本土では若い男性同士が仲良くしているだけで襲われるというような事態も実際にあったようです。まさに人災です。人は怖いと、心から思いました。

それでも、この病気はセックスと血液が原因で感染するらしいということがわかってくると、ゲイもヘテロセクシュアル（異性愛者）も関係なくあつという間に地球上に広がるだろう、そして本土からハワイへ来るのは時間の問題だろうということが、簡単に予測できました。そこで、ウイルスがハワイに上陸するまでの限られた時間のできることをやろうということで、ゲイの医師や日系の看護師さん、セクソロジーの先生、STD（性感染症）の専門家など研究所で出会ったさまざまな人たちとともに民間活動を開始しました。

エイズという病気に対して、社会全体がヒステリーを起こしてしまうのを防ぐため、社会環境を整えることが先決でした。そこで電話相談や地域への情報提供から始めたんです。そして実際に患者さんが出た時のことを想定して心理的ケアのシステムを整備したり、安心して集まれる場所を確保したりしました。そんな努力の甲斐あってか、1983年にハワイで初めて患者さんが出たときも、



PROFILE  
いけがみ ちずこ  
池上千寿子さん

1946年、北海道生まれ。69年、東京大学教養学部教養学科卒業。ハワイ大学でセクソロジーを学んでいた頃にエイズと出会い、現地で民間活動に参加する。91年に帰国。92年より東京都エイズ専門家会議委員。94年、HIVの予防啓発、HIV陽性者へのケアを目的とするNPO法人「ぷれいす東京」を設立し、代表となる。2005年、社会的に目覚ましい活動をしている女性に贈られる「エイボン教育賞」を受賞。2006年度「第20回日本エイズ学会学術集会」では、女性として初めての会長職を務める。おもな著書に『エイズを知る』（角川書店・共著）、『アダムとイブのやぶにらみ』（はまの出版）、『エイズ—性・愛・病気』（現代書館・共著）、『性ってなんだろう』（大修館書店）など。訳書に『セイファー・セックス・ガイド』『文化としての妊娠中絶』（以上、勁草書房）など多数。

医療側はすんなり受け入れることができました。

ただ、セックスと病気が絡むと、途端に人は冷静な態度がとれなくなってしまう。これはいったいなんなのだろう——そんな疑問が、その後もずっと自分の中でくすぶり続けていくことになりました。



## ハワイで初めて日本人のエイズ患者に出会ったときのことを聞かせてください。

1985年、ある日本人の患者さんの通訳として医療チームに加わることになりました。彼は同性愛者ではなく、輸血の経験もない。麻薬注射の回し打ちもしていないため、感染経路はセックスだろうと判断できました。ところが「ぼくはゲイじゃないからエイズのはずがない」「セックスだって、3年くらいしていない」と言うのです。だからエイズに関する情報を提供しつつ、個人的な事情までいろいろとお聞きしました。別れた奥さんと子どもがいること。養育費を稼ぐために一生懸命、働いていたこと。離婚後に付き合い合った女性とは別れたこと——そんな話を聞いているうちに、ウイルスの側から見たら彼とわたしは全く同じ条件だったことに気づきました。わたしもエイズの知識がなかったときは、予防無しのセックスも経験した。でも結果としてたまたま彼は感染し、わたしは感染しなかった。ただそれだけの話。当たり前ですが、HIVウイルスはその人を見て選んで感染するかどうかを決めるわけではありません。

しかし、世間はウイルスを持っている人に対して少なからず偏見の目を持っています。実際、アメリカでは性感染した人をギルティ(有罪)、輸血で感染した人をイノセント(無罪)と呼んでいました。どう考えても、これはおかしい。このとき初めて、これはわたし自身の問題なのだと認識しました。

やがて彼に対して医学的に施すべき手段がなくなりました。当時はま

だ有効な薬が開発されていなかったからです。そこまで来た段階で「なにがしたいですか?」とお聞きすると「日本に帰りたい」という答えが返ってきました。実家にいる母親には苦勞ばかりかけたので、せめて最期くらいは実家へ帰りたいかったです。ところが、次にお会いしてみると「帰国は諦めました」と言うんです。当時の日本にはエイズ患者を受け入れる病院が東京にしかありませんでした。アメリカへ行っていた息子がやせ細って帰国し、そのまま寝たきりで郷里から離れた東京の病院で死んだとなれば、これはもうエイズに決まっている。自分の最期のわがままを通せば、母親を世間の好奇心の目にさらすことになってしまうだろう——そのことをとても気にしていました。自分の死後、母親の生活に悪影響を与えるような親不孝な真似はできない。だったら、アメリカで交通事故で死んで骨となって帰国したことにしてくれと、彼は言いました。

結局、医学的な根拠ではなく、エイズ患者を受け入れる環境が整っていないという理由のために、彼は帰国を諦めざるを得なかったのです。

医療の現場でも心のケアの必要性に気づき始めた。

CHIZUKO IKEGAMI NPO法人「ぶれいす東京」設立の経緯について教えてください。

ハワイにいた頃、ゲイの人たちが「セイファー・セックス」のチラシを作りたいと、わざわざ日本から会いに

来てくれたことがありました。また後日、血友病の人たちもやはり、はるばる会いに来てくれました。そのときになって「ああ、ようやく日本でも当事者が動き出したんだ」と、深く感激したことを覚えています。

1991年に帰国し、翌年、東京都エイズ専門家会議委員に就任。そして1994年にはアジア地域で初めての国際エイズ会議が横浜で開催されることが決まりました。その際、予防とケアの両面で独自の理念で活動する民間団体が必要だと感じていましたし、また世界にアピールする組織が必要だという判断もふまえて、20人前後の仲間と立ち上げたのが「ぶれいす東京」でした。ちなみに「ぶれいす」をひらがなにしたのは、集い・憩い・活動する“場”という意味に加えて「Positive Living And Community Empowerment」という意味も含めてその頭文字を取っているからです。自分らしくポジティブに生きられる社会を作るためにはコミュニティの力が必要であり、それが達成できればより個人の力を引き出せる——名は体を表す名前をつけようと、設立当初にみんなで無い知恵を絞って考えました(笑)。



CHIZUKO IKEGAMI



## 「ぶれいす東京」の具体的な活動内容について教えてください。

予防啓発事業や研究・研修事業をはじめ、HIV陽性者への直接支援として対面相談や電話相談、HIV陽性者とパートナーや家族が安心して集まれる場を提供する「ネスト」というプログラム、それから「バディ派遣」などを行っています。これは英語で“相棒”という意味の「バディ」と呼ばれるボランティア・スタッフが入院中の患者さんを訪問して外出や入院付き添ったり、あるいは在宅の患者さんの話し相手になったりするなど、医療以外の様々な要望に応えます。ただ、このシステムが医療側に受け入れられるまでには数年かかりました。

かつて、医療の現場は医師の聖域でした。家族でもなく友達でもない、わけのわからない一般市民が「わたしはバディです」と言って病院へ行ったらと患者さんと面会できるわけがありません。「邪魔するな」と言われるのがオチです。それでも地道な活動をコツコツと続けていくうちに、少しずつ医療側の意識が変わってきました。

もともとエイズ患者のニーズは医療面だけにとどまらず、心身にわたるケアの面が非常に大きなウエイトを占めています。また、医師や看護師の間でも医療の分野だけではエイズ患者への対応に限界があることに気づき始めたのでしょう。サービスを開始してから数年後には「ぶれいす東京から派遣されてきたバディはしっかりとしたプログラムのもとでトレーニングを積み、医療と

チームを組んで患者のニーズにきっちり応えられる」ということを認めてもらえるようになりました。

## ウイルスより人が怖い。でも、人はウイルスより強い力を持っている。

## 女性初の会長を務める「第20回日本エイズ学会学術集会」や、活動の展望について聞かせてください。

学会の会長に推薦されたとき聞いたのは「え？わたし男じゃないし、教授じゃないし、医師免許も無いわよ？」というのが率直な感想でした。ついでお金も無いわよ、と(笑)。まさに青天の霹靂です。というのも、それまでは会長はすべて男性が務めていましたし、彼らは医師免許を持つ研究所長や大学教授ばかりだったからです。それに、ぶれいす東京の日常業務を止めてまで引き受けるわけにはいかないと考えました。それでも学会の理事会が全面的にバックアップしてくださいとのことでしたし、なによりエイズ当事者の皆さんとともに歩んできたわたしたちの活動が認知され、エイズ対策のパートナーとして認めてくださったわけですから、ここで断っては女がすたる(笑)。そう思い、ぶれいす

東京の理事会にも諮った上で、引き受けさせていただくことにしました。

5年ぶりに東京で開催される今年のテーマは「Living Together ネットワークを広げ真の連携を創ろう」です。これはわたしたちが一貫して掲げてきたものですので、すんなり決まりました。現在、まだまだHIV/AIDSに対する一般の人たちの理解は十分だとは言えませんが、ぶれいす東京を立ち上げた頃と比べると、とくに若い人たちは確実に変わりました。実際に、HIV陽性者であろうとなかろうと、民間レベルでは盛んに交流が行われています。

ウイルスより人が怖い。でも、人はウイルスより強い——これはわたしが初めてエイズ問題に直面して以来、四半世紀の間ずっと感じ続けている思いです。行政や医療の努力だけでは、決して解決に向かいません。すべての人が当事者であるという自覚を持って変わっていかなくちゃいけない。残念ながら現状では、まだまだ人が勝手に作った思い込みや偏見から逃れられていません。エイズは社会を映す鏡だとよく言われますが、エイズを通して社会の矛盾や課題がみえてきます。それに気づけば行動できる。行動していれば少しずつ変わります。一人では無力でも仲間がたくさんいます。そんな理解の広がりを目指しています。

### 第20回 日本エイズ学会学術集会

11月30日(木)からの3日間、第20回日本エイズ学会学術集会が開かれます。今回、池上千寿子さんが初めて民間組織の立場から会長を務めています。

**期間** 11月30日(木)～12月2日(土)

**会場** 日本教育会館、学術総合センター(千代田区)

**参加費** 一般1万円、学生5,000円

第20回日本エイズ学会学術集会ホームページ  
<http://www.ptokyo.com/20gakkai/>  
 運営事務局:03-3263-8688

### NPO法人 ぶれいす東京

1994年4月設立。現在200人のスタッフがHIV陽性者や家族の相談窓口、HIV感染への不安を抱える人を対象とした電話相談サービス、企業・専門家の研修会への講師派遣などの活動を行っています。

NPO(特定非営利活動)法人  
 ぶれいす東京ホームページ  
<http://www.ptokyo.com/>

エイズ電話相談:03-3361-8909 日曜13時～17時  
 その他お問い合わせ:03-3361-8964 月～金12時～19時

## 伝言板 1

## information 01

東京都人権プラザ展示室からのお知らせ  
12月4日(月)から、本年度の  
特別展が始まります

## 特別展テーマ1

## 守る・育てる・子どもと向き合う

虐待やいじめなど、子どもをめぐるニュースが、メディアで報じられない日はありません。子どもを守ること、育てることは大人の責任です。この展示は、「守る」「育てる」「子どもの声を聞く」という3つの視点から、子どもの問題について考えていただくものです。



地域安全マップ

## 特別展テーマ2

## 認知症のいま — 地域で支える暮らし

新たな言葉として定着しつつある認知症。高齢者問題、介護の問題に関わるキーワードとして取り上げられることも多くなっています。症状改善・予防の取り組み、認知症高齢者を地域で支えるためのさまざまな活動等をご紹介します。

**場所** 東京都人権プラザ展示室(台東区橋場1-1-6)

**入場料** 無料

**時間** 時間:9:00~17:00 年末年始を除き、毎日開催  
(平成19年1月31日まで開催予定)

## 伝言板 2

## information 02

## 夜間人権ホットライン

差別や虐待などの人権問題について弁護士による法律相談を電話でお受けします。人権に関するお困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。個人の秘密は厳守します。

**相談日時** 平成18年12月8日(金)  
17:00~20:00

ホットライン

**03-5808-3115**  
**03-5808-3116**

相談時間は一人あたり10分程度

**費用** 無料

**連絡先** 東京都人権啓発センター相談担当  
03-3871-0212

## 伝言板 3

## information 03

11月16日~12月15日は  
東京都エイズ予防月間です。 **STOP AIDS**  
HIV/AIDS みんないっしょに生きている  
エイズは他人事ではありません 私たちの問題です

東京都福祉保健局エイズについてのホームページ  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/STOPAIDS/>のバナーをクリック

東京都福祉保健局 健康安全室 感染症対策課 エイズ対策係  
TEL:03-5320-4487(ダイヤルイン) Fax:03-5388-1432  
mail:S0000312@section.metro.tokyo.jp

11月25日~12月1日は  
犯罪被害者週間です。

リーフレット「必要なのはみなさんの理解です」をお配りしています。

お問い合わせ 〒163-8001 東京都総務局人権部  
TEL 03-5388-2588 FAX 03-5388-1266

12月10日~16日は  
北朝鮮人権侵害問題啓発週間です。

北朝鮮当局による拉致問題は、重大な人権侵害です。

## 伝言板 4

## information 04

## ●東京都人権啓発センター賛助会員の募集

団体賛助会員 一口30,000円 個人賛助会員 一口2,000円  
(ともに会員期間は会費納入後1年間)

## ●特典(団体会員)

- ・研修講師の出演が1回(2時間まで)無料となります。
- ・「TOKYO人権」やセンターのホームページに団体会員名を掲載いたします。
- ・「TOKYO人権」や行事の事前案内などをお送りします。

## 団体賛助会員の皆様 (平成18年12月現在)

株式会社 コミュニチュア  
財団法人 東京都交通局協力会  
劇団 東京ルネッサンス  
東京人権啓発企業連絡会  
有限会社 東京エイドセンター  
東京 M X テレビ  
(社)板橋区シルバー人材センター  
財団法人 東京都弘済会  
東京都住宅供給公社  
株式会社 日本アクセス  
東京都下水道サービス株式会社  
東京地下鉄株式会社  
財団法人 東京都中小企業振興公社  
(学) 高宮学園  
東京都職員信用組合  
株式会社 WOW  
東京電力株式会社  
株式会社 はとバス  
株式会社 プランニング・ヴィ

(順不同)

お問い合わせは 総務課 TEL 03-3876-5371

# 特集 02

## 人権週間 イベント情報

人権週間(12月4日~10日)を中心に、東京都をはじめとして、都内の多くの区市で人権に関するイベントを予定しています。

<b>12月5日</b> (火) <b>13:00~</b> <b>16:30</b>	<b>「トーク&amp;コンサートと映画の集い」</b> <b>入場無料・先着順(1,800名)</b> 八王子市民会館(八王子市上野町32-1) <b>「～“生きる喜び”を伝える～」</b> <b>トーク&amp;コンサート(ピアノ演奏):高橋多佳子氏</b> <b>映画:「博士の愛した数式」(字幕入り)</b>	<b>12月7日</b> (木) <b>13:00~</b> <b>16:50</b>	<b>「講演と映画の集い」</b> <b>入場無料・先着順(1,400名)</b> 練馬区文化センター 大ホール(練馬区練馬1-17-37) <b>人権作文の朗読:練馬区立中学校生徒2名</b> <b>講演:越川禮子氏「江戸しぐさと思いやり」</b> <b>映画:「博士の愛した数式」(字幕入り)</b>
--	---	--	---

主催:東京都人権啓発活動ネットワーク協議会(東京都、東京法務局、東京都人権擁護委員連合会)  
 八王子市(12/5)、練馬区・練馬区教育委員会(12/7)  
※上記両イベントとも、託児(一歳以上、要予約:東京都総務局人権部03-5388-2588)・手話通訳・パソコン要約筆記有り  
 お問い合わせ先:東京都総務局人権部 電話:03-5388-2588(直通) FAX:03-5388-1266

### 講演と映画等

実施日時	内容	実施場所	問い合わせ先
12月2日(土) 13:00~15:40	講演:「手話と私と歌」 講師:中山朋子氏(手話歌手) 野津田高校手話部による手話ダンス&コーラス	町田市民フォーラム (町田市原町田4-9-8)	町田市 健康福祉部福祉総務課 042-724-2133
12月2日(土) 13:30~15:30	講演:「自分らしさを最後まで、元気なうちに老い支度～任意後見制度と遺言～」 講師:小林奈保絵氏(人権擁護委員)	田無庁舎 2階 202・203会議室 (西東京市南町5-6-13)	西東京市 生活文化課生活文化係 042-464-1311 内線1413
12月2日(土) 13:30~16:00	人権のつどい 講演:「考えよう 暮らしの中の安全」 講師:斎藤貴男氏(ジャーナリスト)	国分寺市立Lホール (JR国分寺駅ビル8階)	国分寺市 男女平等人権課 042-573-4378
12月3日(日) 13:45~15:30	人権啓発映画上映会 映画:「あした元気になるね」 「未来への虹」 ※人権相談、小・中学生人権標語・ポスター展、パネル展も同時開催	品川区立荏原文化センター (品川区中延1-9-15)	品川区 総務部人権啓発課 03-3763-5391
12月5日(火) 13:45~15:30	人権週間講演会 講演:「多事争論」 講師:筑紫哲也氏(ニュースキャスター)	大田区民ホール アプリコ (大田区蒲田5-37-3)	大田区 経営管理部広報広聴課 03-5744-1135
12月6日(水) 13:30~16:00	講演:「気づいていますか?子どもの心の赤信号～虐待を防ぐために～」 講師:安藤由紀氏(PEACE暴力防止トレーニングセンター)	江戸川区総合文化センター 小ホール (江戸川区中央4-14-1)	江戸川区 総務課法務担当係 03-5662-6264
12月6日(水) 14:00~16:00 ※事前申込制	講演:「子どもたちへ」—夜回り先生といのちを見つめる授業— 講師:水谷修氏 ※申込受付は既に締め切りました。ご了承ください。	サンパール荒川大ホール (荒川区荒川1-1-1)	荒川区 総務企画課人権推進係 03-3802-3111 内線2271
12月6日(水) 14:00~16:30	講演:「人の命の喜びを」 講師:伊藤竹三氏(生涯学習講師) ポスター・人権作文表彰式 他	足立区役所2階 庁舎ホール (足立区中央本町1-17-1)	足立区 総務課人権・同和係 03-3880-5497
12月6日(水) 18:30~20:00	人権週間記念講演会 講演:「人生の教科書」 講師:古賀稔彦氏(柔道家)	北とびあ つつしホール (北区王子1-11-1)	北区 総務部総務課総務係 03-3908-8623
12月8日(金) 13:30~16:00	ひとり語り:「橋のない川(第一部)」 語り手:向田敬子氏 映画:「人権の扉をひらく」	墨田区社会福祉会館 (墨田区東墨田2-7-1)	墨田区 社会福祉会館 03-3619-1051
12月8日(金) 13:30~16:30	講演とメッセージのつどい 講演:「新ちゃんのお笑い人権講座」 講師:露の新治氏(落語家)	江東区文化センターホール (江東区東陽4-11-3)	江東区 人権推進課 03-3647-1164
12月8日(金) 13:00~17:00	講演:「発達障害とメディア～報道の現場から」 講師:野沢和弘氏 映画:「クワイール」	北沢タウンホール (世田谷区北沢2-8-18)	世田谷区 生涯学習・スポーツ課 03-5432-2731
12月9日(土) 13:00~16:00	詩の朗読とピアノ演奏:谷川俊太郎氏、谷川賢作氏 人権メッセージの発表:区内小中学生 他 ※人権パネル展も同時開催	セシオン杉並 (杉並区梅里1-22-32)	杉並区 区長室区政相談課 03-3312-2111
12月9日(土) 13:30~16:30	民・学・公連携事業 シネマ&レクチャー 映画:「ヘアテの贈りもの」	実践女子短期大学講堂 (日野市神明1-13-1)	日野市企画部男女平等課 042-584-2733
12月9日(土) 14:00~16:00	人権週間市民のつどい 人権ポスター・作文・標語の表彰式、生徒・学校からのメッセージ、その他	東久留米市民プラザ (東久留米市本町3-3-1)	東久留米市 総務部総務課 042-470-7714

実施日時	内容	実施場所	問い合わせ先
12月9日(土)	第11回小・中学生の人権作文発表会	府中市立府中の森芸術劇場 ふるさとホール (府中市浅間町1-2)	府中市 学校教育部指導室教育センター 042-364-4108
12月10日(日) 13:30～15:30	緊急座談会「『いじめ』による犠牲者をなくすためには・・・」 講師:平清太郎氏(子ども人権オンブズマン)	日野市福祉支援センター (日野市高幡1011)	日野市 企画部市長公室市民相談担当 042-585-1111
12月10日(日) 14:00～16:00	講演:「パート1千万人の素顔」～取材から見えたこと～ 講師:竹倍三恵子氏(ジャーナリスト、朝日新聞記者)	清瀬市男女共同参画センター (清瀬市元町1-2-11)	清瀬市 男女平等推進室 042-495-7002
12月11日(月) 13:00～17:00	講演:「心の輝き 人・愛・希望 ～そして、生きることの素晴らしさ～」 講師:千葉紘子氏(歌手・篤志面接委員・保護司) 映画:「明日の記憶」	品川区立総合区民会館きゅりあん (品川区東大井5-18-1)	品川区 総務部人権啓発課 03-3763-5391
12月12日(火) 13:30～17:10	講演:「シルクロードの日本人伝説～ナボイ劇場を作った抑留者たち～」 講師:篤信彦氏(ジャーナリスト) 映画:「マザー・テレサ」	港区立高輪区民センター 1階区民ホール (港区高輪1-16-25)	港区 人権・男女平等参画担当 03-3578-2111 内2025～7
12月14日(木) 13:30～16:30 ※事前申込制	講演と映画のつどい 講師:椎名誠氏(作家) ※人権パネル展も同時開催	葛飾区男女平等推進センター 多目的ホール (葛飾区立石5-27-1ウィメンズバル内)	葛飾区 人権推進課同和对策担当係 03-5654-8148(直通)
12月15日(金) 13:30～16:00	講演:「マムシ流 人と人とのふれあい ～心の時代～」 講師:毒蝮三太夫氏(タレント) 映画:「壁のないまち」	浅草公会堂 (台東区浅草1-38-6)	台東区 総務部人権・協働課 03-5246-1116
12月16日(土) 12:50～16:50	講演:「老いにやさしく心を添えて」 講師:小林完吾氏(元日本テレビアナウンサー) 映画:「ホーム・スイートホーム2」	目黒区民センターホール (目黒区目黒2-4-36)	目黒区 総務部人権政策課 03-5722-9214

## 人権相談・パネル展等

実施日時	内容	実施場所	問い合わせ先
11月29日(水) ～12月7日(木)	人権啓発パネル展	新宿区役所本庁舎 1階ロビー	新宿区 総務課男女共同参画・平和担当 03-5273-4088
12月1日(金) ～12月10日(日)	著名人からの「人権メッセージパネル展」	羽村市役所 1階ロビー (羽村市緑ヶ丘5-2-1)	羽村市 総務部庶務課庶務係 042-555-1111
12月4日(月) ～12月8日(金)	人権パネル展	昭島市役所 1階ロビー (昭島市田中町1-17-1)	昭島市 企画部秘書広報課 042-544-5111
12月4日(月) ～12月8日(金)	人権週間行事人権パネル展	青梅市役所 1階ホール (青梅市東青梅1-11-1)	青梅市 市民部生活コミュニティ課市民相談係 0428-22-2816
12月4日(月) ～12月8日(金) 8:30～17:00	中野区人権パネル展 ※最終日は15:00まで	中野区役所 1階区民ホール (中野区中野4-8-1)	中野区 総務部平和人権担当 電話03-3228-8988
12月4日(月) ～12月8日(金)	東村山市人権パネル展 市内小学校人権資料・人権作文等展示	東村山市役所 いきいきプラザ1階 ロビー (東村山市本町1-2-3)	東村山市 市民部市民生活課 担当 00-1111-2222
12月4日(月) ～12月8日(金)	人権パネル展 男女共同参画に関するビデオ上映	東大和市役所 1階ロビー (東大和市中央3-930)	東大和市 総務部総務課(パネル) 生活環境部市民生活課(ビデオ) 042-563-2111
12月4日(月) ～12月11日(月)	平和と人権のパネル展	豊島区役所本庁舎 1階ロビー (豊島区東池袋1-18-1)	豊島区 総務部総務課総務係 03-3981-1111 内線2212
12月4日(月) ～12月11日(月)	人権パネル展 (著名人から青少年に向けたメッセージパネル展)	千代田区役所 1階玄関ロビー (千代田区九段南1-6-11)	千代田区 国際平和・男女平等人権課 03-3264-2111 内線2222
12月5日(火) 13:00～16:00	人権特設相談	三鷹市役所 1階ロビー	三鷹市 総務部相談・情報センター 0422-44-6600
12月5日(火) 13:30～16:00	人権身の上相談特設相談	青梅市福祉センター 1階市民相談室 (青梅市東青梅1-177-3)	青梅市 生活コミュニティ課市民相談係 0428-22-2816
12月5日(火) ～12月7日(木) 10:00～16:00	人権パネル展	国立市役所 1階ロビー (国立市富士見台2-47-1)	国立市 秘書広報課広聴担当 042-576-2111
12月8日(金) 13:30～16:30	人権身の上相談	あきる野ルピア 4階展示室 (あきる野市秋川1-8)	あきる野市 秘書広報課 042-558-1111

# リ-Talk

YUKIO CHOU



community center akta  
(コミュニティ・センター・アクタ)  
事務局  
張由紀夫さん

TOKYO人権

## HIV/AIDSの情報を発信する “新宿二丁目の公民館”

HIV/AIDSなどのSTD(性感染症)情報を発信する「community center akta(アクタ)」は、新宿二丁目に集う人々にとって公民館のような役割を果たしています。少しでもHIV/AIDSに関心を持ってもらうため、検査に関する情報提供、陽性者やそれをささえる人々の手記閲覧、展覧会やワークショップの開催など、多彩に展開しています。そこでakta事務局の方に、設立の経緯や運営方針、活動内容などについてうかがいました。

HIV/AIDS情報の発信源となる施設は、海外の大都市には問題の発生当初から当たり前のようにはありました。一方、東京では様々な支援団体や個人がそれぞれ別個に活動していたので、「陽性者同士が出会い、ネットワークへアクセスできる場所が必要」と、行政へ働きかけてきました。そんな背景のなかで、akta(アクタ)は2003年8月にエイズ予防財団の事業の一環として開設しました。

活動で難しいのは、「啓発」はつい上から見下ろすような口調で語ってしまいがちなところ。そうすると、一番伝えたい人にもものすごく拒否反応を示されて、もう何も聞いてもらえなくなってしまうんです。これはHIV/AIDSに限ったことではないのですが、いわゆる「啓発」というものを自然と拒絶してしまう人はかなり多いと思います。そこを理解した上で、いかにしてこちらの言うことに耳を傾けてもらうかが大事なポイントです。

ですので、今では訪れてくれた人となるべく同じ目線で相互に情報を提供し合う情報交換拠点をめざしています。わたしたちは新宿二丁目という場所をそういった啓発拠点として選んだわけですから、この町に集う人たちの視点を取り込みつつ、一緒に問題に取り組んでいかなくてはならないと考えています。

具体的な活動内容ですが、「デリバリー・ボーイズ」があります。これは毎週金曜日にユニフォームを着込んだスタッ

フ数人が新宿二丁目のゲイバーを回り、コンドームやHIV/AIDSの小冊子などを無料で届けるというサービスです。配ったコンドームの数は、半年間で約3万2000個。ただ、実際に感染予防の効果を上げるためには、その10倍以上が必要と言われていています。だからある意味、これはパフォーマンス。モノを届けることはもちろん重要なのですが、それ以上に、啓発のためのモノや人が、いつも自然にそこに存在するという状況をこの町に作りたかったんです。お客さん同士、あるいは店の人とHIV/AIDSについて話すきっかけになってほしいんですよ。

また、aktaではHIV陽性者や、その周りの人々の手記を読むことができます。ファイルされた手記を読んで手紙を書く、それもまたファイルされていきます。これは「LIVING TOGETHER計画」というプロジェクトの一環で、NPO法人ぶれいす東京が始めたものです。手記をまとめた冊子の発刊記念展に会場を提供したのをきっかけにいっしょに活動することになりました。これに関連して毎月、音楽と言葉を使った「LIVING TOGETHER LOUNGE」というイベントも開いています。毎回異なる音楽家にライブをしてもらい、何人かの人たちに手記を朗読してもらいます。手記を読んだり、聞いたりすることによって「みんなHIVとともに生きているんだ」とリアリティを感じる事が、予防にもつながるのではない

かと考えています。「わたしには関係ない」という一言で片付けられてしまったらそこで終わり。だからこそ、誰の耳にも届くような言葉——それこそ渋谷のギャルにも、下町のおばちゃんにも聞いてもらえるような言葉で語りかけていく必要があるんです。

ほかに、スペースの貸し出しも行っています。シンポジウム、勉強会、イラスト展などなど、営利目的でなければ幅広く使っていただいています。“新宿二丁目の公民館”というつもりで気軽に足を運んでください。まずは皆さんに「こういう場所があるんだ」ということを知ってもらいたいです。



### community center akta

東京都新宿区新宿2-15-13  
第2中江ビル301号室

TEL 03-3226-8998

年中無休(年末年始をのぞく)

16:00~22:00

URL <http://www.rainbowring.org/akta/>E-Mail [info@rainbowring.org](mailto:info@rainbowring.org)

## 12月4日(月)から10日(日)までは人権週間です。

(財)東京都人権啓発センターでは、都民のみなさんに、人権について関心を高めていただくため、啓発用のポスターを作製いたしました。ご希望の方にこのポスターをお分けます。詳しくは下記まで、お電話、FAX、メールでお問い合わせください。

お問い合わせ・お申込み



財団法人  
東京都人権啓発センター 普及情報課

TEL.03-3876-5372 FAX.03-3874-8346  
E-mail:info@tokyo-jinken.or.jp

※FAX、メールでお申し込みの場合は、件名に「ポスター申し込み」と明記してください。

サイズはB2のみ、ポスターは無料配布ですが、送料は負担していただけます。在庫がなくなり次第終了とさせていただきます。

